



30日(土)にエイブル先生の集中講義 9月に訪問へ 茨大・PSU 交流事業

1週間の日程で、14日から開かれていた米ペンシルベニア州立大学との5月交流事業が20日に終了した。これに続く第2弾として人文学部は、30日(土)午前には訪日中のPSUのエイブル准教授を招き、日米の比較文化などについて人文C棟406のメディア講義室で、集中講義を開く。焦点の9月の米PSUでの交流は、TOEFL、TOEICなどのベースに学生を選抜し、派遣する。

30日のエイブル先生による講義は、①メディアと社会②発禁本の世界③映画を通じた日米関係一となる。エイブル先生は、茨大との交流事業のPSU側の責任者で、9月の交流の際には茨大生の面倒をみていただける。日本語は堪能ではあるものの講義は、英語となる。

茨大生が米ペンシルベニア州のPSUに出向いて実施する9月の交流は、2週間程度の日程を予定している。

テーマをそれぞれが設定し、英文の論文とパワーポイントを作成し、PSU生を前に英語で発表する。質問にも答える。昨年、「日米食文化の差異」、「日米の風呂文化」「日米のスポーツ観の相違」などがテーマとなった。



30万円程度とみられる旅費は、自前となるが、この事業が既に日本学生支援機構からの支援対象として認められているため補助が期待できる。所得制限に抵触した学生に対しては、これとは別の大学当局からの支援が支出される見通し。

2週目に入った5月交流事業は、18日にfield tripを実施。日本3大名園に数えられる偕楽園を午前には訪問、好文亭などを訪れた。



「素晴らしい」、「優雅だ」と感激の声をあげていた。午後は、内原のイオンモールに寄り、食事を済ませ、その後、国の重要文化財に指定されている笠間稲荷などを見学した。

翌日は、乙部延剛先生による英語の講義の聴講の後に最終日の発表に向けて最終調整。最終日の20日は午前9時半から9人のPSU生によるプレゼンテーションの発表会となった。お客様本位で、待つ時間が短い「便利な日本」を筆頭に、「日米の



紙幣」、「日米中の教育制度」などについて米国などの視点からの興味深いプレゼンが聞けた。

終了後、双方の学生、職員らの資金提供で「簡単なお別れ会」が開かれた。お寿司やおードブルなどをつまみながら、約90分の歓談が続いた。



PSU のスミット先生からマンダリンの演奏が披露され、軽快な調べに皆が聞き入っていた。最後に国際戦略室の森聖治室長から両大学の交流をさらに深め、協定関係を緊密にしたいとの締めくくりの挨拶があった。 (以上)

